

とはち通信

長崎西南部の史跡・名勝・天然記念物等の紹介通信

第 13 号

※一説によると、かつて長崎西南部一帯を総称して戸八ヶ浦（とちらがうら）と呼ばれた時期がありました。現在、この名は存在しませんが、長崎西南部に対する尊敬の念をこめてこのようなタイトルをつけてみました。
二〇〇九年十一月一日 落矢八郎

女神地区

女神と聞けば、多くの方が「女神大橋」と答えるでしょう。観光スポットとしてここは大変有名ですね。地元の方も散歩やウォーキングで楽しんでおり、今や長崎の人には生活の一部となった橋です。さしずめ現代の「名勝」といったところですか。

かつての女神はこのように開かれていない静かな場所でした。江戸時代には台場（二番石火矢台）が築かれ、江戸幕府は長崎の異国船の警護にあたりました。当然、一般人の立入制限はあったと考えられます。今回は女神についての話をさせていただきます。

女神について

どうして「女神」という名前なのでしょう。私はあまり深く考えたことはなかったです、というより深く考えませんでしたし、何も考えずに唯々女神と呼んでいました。

現在の女神は下水処理場があります。すが、ここは埋め立てた場所です。当然、国道の直線道路も同様です。かつて、ここは小さい入江が存在した場所

所なので。国道の歩道（海岸側）を歩くとテトラポットがあります。干潮時にこの辺りを観察すると岩礁をみる事ができますが、明らかに埋め立てた場所であると言えるでしょう。明治時代の地図に女神地区が記載されていますが確かに入江を呈しています。しかし、この地図には不思議な島が記載されています。実はこれが女神島で老松が生えた円形状の島だったそうです。島は細い通路によって東側の陸地と結ばれており、そこには女神検疫所が存在しました。この地図を見る限り、明治の中ごろは既に入江は造成されたようです（埋め立ての有無は断言できませんが）。『長崎市史』にも女神に関する記事がありますが、ここには女神検疫所の前には老松がある島として紹介されています。したがって、江戸時代、女神の入江と島は開拓されていなかったといえるでしょう。

話が変わりますが、実は男神という地名があります。男神は女神の対岸に位置し、おそらく神崎神社近辺ではないかと思われます。ここは入江にはなっていない。男神と女神は地形の形状からついた名前なのでしょう。それとも、この辺りの神宮皇后伝説に関係したのでしょうか。あまり調べていないのでハッキリした答えが言えないのが現状です。ちなみに神崎神社の頂には男神と女神の御神体が安置されています。

女神崎

女神崎は海岸側の女神バス停のところとされます。干潮時には岩礁をみることが出来ますよ。私はここで磁器片を採集しました。江戸時代の亀山焼とのことです。

女神検疫所

現在、福岡検疫所長崎検疫所支所となっています。一八七九（明治十二）年七月の太政官布告により長崎県地方検疫所および船舶消毒所が設置されたのを起源とします。当初は松ヶ枝の方にあつたそうです。その後、一八九六（明治二十九）年には消毒所（内務省所轄）の名称が女神検疫所に改称されます（この段階ですでに入江を造成した場所に建物がありました）。戦後

ホームページ
とはち通信の検索
メール
hochiya@yahoo.co.jp

長崎検疫所に改称され一九九七（平成九）年に今の名称になりました。女神検疫所は内務省→長崎県港務部→長崎税関→厚生省→逓信省→運輸通信省→厚生省→厚生労働省の所属を経ながら名称を変えていきました。
長崎検疫所支所は長崎県内と佐賀県伊万里市に入港する船舶に対する検疫業務に従事しています。現在の支所は一九八三（昭和五十八）年に長崎港湾合同庁舎から移転したということです。（文責 落矢八郎）

【引用・参考文献】
・福田忠昭ほか 一九三七「女神崎」『長崎市史』長崎市役所

【次号について】
次号は「長崎要塞」について話をさせていただきます。年明けぐらいにお伝えできればと考えています。

【お知らせ】
とはち通信は二〜三ヶ月に一回のペースで刊行していきます。



写真1 女神大橋近景 (祝の浦方面から撮影)

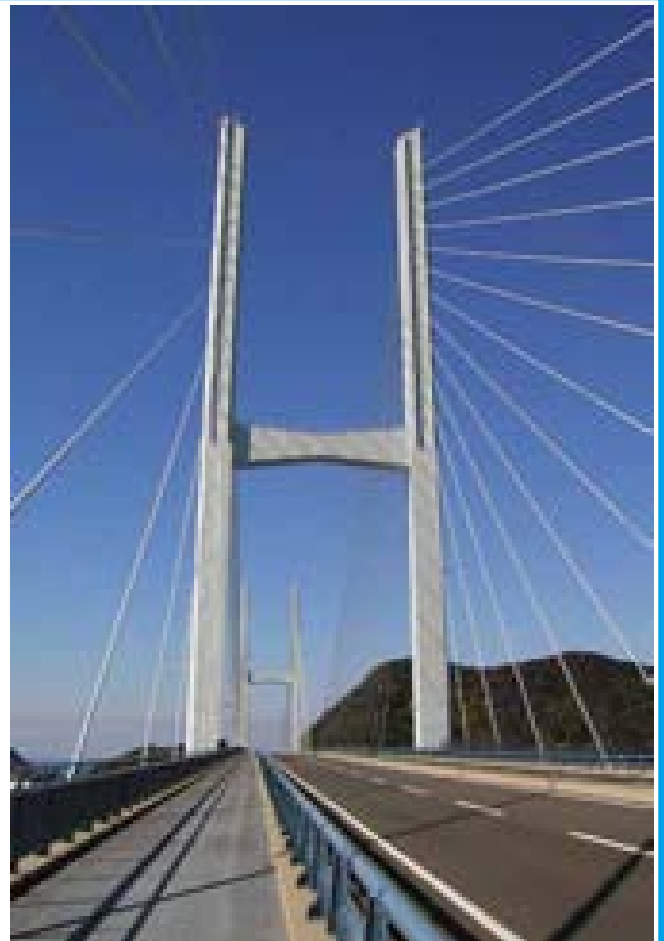


写真2 女神大橋 (女神側から撮影)



写真3 長崎港遠景 (女神大橋から撮影)



写真4 長崎湾遠景① (女神大橋から撮影, 中央は香焼)



写真5 長崎湾遠景② (長崎検疫所支所から撮影)



写真6 女神崎近景 (干潮時に岩礁が現れます)



写真7 女神大橋遠景 (土井首埠頭から撮影)